

次 第	顛 末
1 開 会	事務局 開会宣言
2 挨拶	森座長（大東文化大学） 吉澤勲 教育長（東松山市教育委員会）
3 協 議	<p>部活動に関する情報提供・本日の説明</p> <p>事務局 ①埼玉県中学校体育連盟主催大会の地域展開実施上の問題点 ②本日の協議について説明（狭山市の事例を参考に）</p> <p>森座長 理想は子どもが、競技レベルを考え選択できるようにしてあげたい。</p> <p>太田委員 吉見町でおこなっている武蔵丘スポーツクラブの紹介</p> <p>事務局 参考資料の狭山市クラブ活動推進ガイドラインの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の形を見直した地域クラブの説明 ・10月～12月の移行期間について ・登録クラブについて ・部活動のエリア分けについて <p>協議内容の確認</p> <p>現在の部活動を生かして実施可能なこと。部活動指導員の活用も含めて</p> <p>寺田委員 狭山では運営団体はどこか。</p> <p>事務局 民間団体が運営している。</p> <p>長澤委員 運営団体はどこがおこなっているか。</p> <p>事務局 複数で行っている。</p> <p>森座長 先行事例を共有していくことが大切。実施母体が教育委員会で設立したものもある。そのことにより、公共性を保っている。今回の例は非常によく、従来の部活動だけでなく、登録クラブの参入もあり非常に良いと感じた。</p> <p>事務局 資料の訂正。北中学校女子バスケット部は廃部となっている。</p> <p>森座長 エリアごとの活動になった場合は、活動場所への移動はどのようにしているか。</p> <p>事務局 保護者の責任で行っている。安全保険に入っている。</p> <p>森座長 費用はどれぐらいか。</p> <p>事務局 狭山市では実証事業で3000円を個人負担としている。</p> <p>森座長 国の方針も修正をしながら進んでいる。まずは土曜日・日曜日の展開を目指そうと考えているが、見直しを繰り返し進んでいきたいと思う。持続可能なシステムを作る必要がある。</p> <p>西川委員 狭山市は練習会場をどうしているか。</p> <p>事務局 拠点となる学校で実施を行っている。</p>

西川委員 事務局	中体連の大会はクラブと学校のどちらから参加しているか。 現在、実証事業の期間なので大会参加については考えてないが、基本的には学校から参加する予定となっている。
西川委員 事務局	部活動指導員は現在の8名より多くなるか。40名ぐらいが理想だと考える。 今年度よりは多くなる予定予算で要求をしている。
大塚委員	吹奏楽部の場合、エリアごとに別けることにより、練習をできない場面ができてしまうと考えられる。
森座長	実践事例を参考にその場面も検討しなければならない。
太田委員 事務局	白岡市でも吹奏楽部については各校に指導員を派遣するようなシステムを採用している。 現在、野球部は市内に5校設置しているが、エリアごとに別けた場合のデメリットを教えて欲しい。
遠藤委員	バレーボールの場合、一緒に練習するよさもあるが、冬季は夏季に向けて中体連以外の大会もあるので、そのバランスも考えなければならない。
森座長 岡部委員	大会の在り方を考えなければならないと考えている。 エリア分けした場合、保護者の送迎がないと子どもが自分で通えなくなる。送迎などの関係で活動に参加できない家庭もできてしまうのではないかな。
森座長	そもそも、土日やるかという議論も必要ではないか。また、大会の実施方法も検討していく必要があると考えている。埼玉県はどのように考えているか。
西川委員 森座長	埼玉県中体連も日本中体連の動向を踏まえた活動となっている。 県内では先生方がクラブチームを作り取り組んでいるという状況もある。
遠藤委員	地域や都道府県によってそれぞれ実情が違う現状となっている。
西川委員	費用と指導者の確保が一番の課題だと考えている。また、市として行うなら市の施設を優先的に使えるなど配慮も必要ではないかな。
太田委員	先日、群馬県の事例を聞いた。群馬県では指導者研修の費用を確保していると伺った。講習費用負担をした受講者は必ず、講師協力することを約束として受講するシステムを構築したとのこと。
森座長	指導者を確保する方法を検討する必要がある。
太田委員 事務局	人材バンクを市では作成しているか。 現状行っていない。
寺田委員	スポーツ協会では管理をしている状況がある。
森座長	指導者として活動できる人材の確保は急務であると考えている。 また、色々な形を考えなければならないと考えている。
教育長	ねらいは子どもの活動充実と教職員の負担軽減であると考えている。土日の地域

	展開は競技によって実施のハードルがそれぞれことなると考える。土日を地域クラブにするということは、土日の部活動がないのは学校としてどうかという意見を伺いたい。
松崎委員	土日は活動がなくてもよいと考えている。子どもが選択して活動できる環境を作りたい。
西川委員	ここ最近では部活動を無理にやらなくても良いという先生方も多くなってきている。
長澤委員	やるかやらないかを決める必要がある。教員の中にもやりたい先生も多くいるので兼職兼業を行える環境を作る必要があると考える。
遠藤委員	時代の流れもあるので市の方針に従う。やりたい人もいればやりたくない方もいる。部活動指導員の単独実施は行ったか。部活動指導員が講習会を行うことはできるか。
事務局	今年度、単独実施の部活動を行った。また、部活動指導員の講習会も今後検討したいと考えている。
森座長	形を考える中で、部活動での就学指定校変更を考える必要があると考える。
寺田委員	土日の活動をしないことは、どのような形なのか。地域クラブもやらないということか。
森座長	形が色々あるので、わかりやすい名称や施設の活用を検討していく必要がある。
寺田委員	出来るだけ、活動場所を確保して、活動を保証してあげてほしい。
岡部委員	部活動指導員は拠点校以外の指導はあるか。
事務局	現状ではないが、検討課題である。
森座長	吹奏楽などは部活動指導員についてどう考えるか。
大塚委員	一校一人が望ましい。
松崎委員	部員が少なく、合同で大会に参加している学校もある。
4 諸連絡 事務局	今後の協議会の開催について、次回はと2月を予定している。
5 閉会	事務局：学校教育部 次長 澤田一彦
上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。	<p>令和7年 12月11日 署名委員 岡部 健</p> <p>令和7年 12月12日 署名委員 松崎 努</p>